

平成21年外来この一年

外来科長 高橋 みさ子

平成21年度は昨年度の課題として残ったことについて外来目標に上げ、改善に取り組みました。

〈平成21年度外来目標〉

1. 機能評価受審のための準備を行う

＊各外来のマニュアルの整備を行う

各外来で既存のマニュアルを見直し固定チームナースで助勤体制を実施する時の参考としました。機能評価までにマニュアルの作成は終了することができました。

2. クリニカルパスを推進する

＊各チームクリニカルパスを新たに作成するか、病棟と連携したクリニカルパスの見直しを行う

(入院の説明時に使用しているパスの説明が出来るようにする)

Aチームで実施している化学療法で新しくパスを作成し使用しました。病棟で使用中のパスについては、外来での説明は出来ずに終わりました。今後DPCに関連し入院期間の短縮を考慮すると外来での説明が必要と思われるので次年度への課題となりました。

3. 外来化学療法について知識を深める

今年度は化学療法推進委員を設置し、化学療法を実施するに際に必要な研修と業務の改善を行いました。診療部・薬剤部の協力を受けて、6回の研修を実施しました。又院外の研修にも2回参加し外来内で研修報告をした。化学療法室の物品を整備し、テレビの設置・BGMも採用しました。

化学療法は、消化器内科、外科が主として実施されており、件数も増加しています。又4月からは泌尿器科も開始となりました。

消化器内科化学療法件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
H20年	21	14	18	9	7	7	14	12	12	12	15	18	159
H21年	18	32	45	38	30	26	26	30	33	29	28	30	365

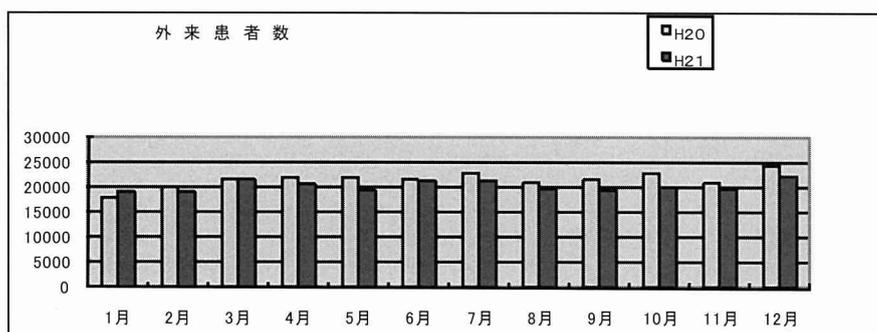
外科外来化学療法件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
H20年	12	12	18	23	22	18	23	20	21	17	11	18	215
H21年	16	15	21	20	24	23	23	16	17	22	23	18	238

現在は各科で化学療法を対応していますが、化学療法担当者の育成と人員の確保の検討が必要とされます。

〈外来診療について〉

1. 外来の診療は、呼吸器内科が月2回と成り、脳神経外科が午前診療のみとなりました。受診患者数は昨年と比較するとやや減少傾向になりました。



各科の現況と展望

DPCの影響として外来業務の中では造影CTが約1割増加しました（前年度9ヶ月分で比較）。入院では約2割減少しています。

昨年秋には新型インフルエンザの流行があり、診察時の対応が手探り状態で開始されました。一時期は救急外来が日中150人にもなり、待ち時間が延長し患者さんにご迷惑を掛けました。受付の混乱があり、受付業務について検討されました。又、ワクチン接種についても、診察場所・時期・担当者の決定に時間を要し、開始が遅くなりました。次年度については早期か

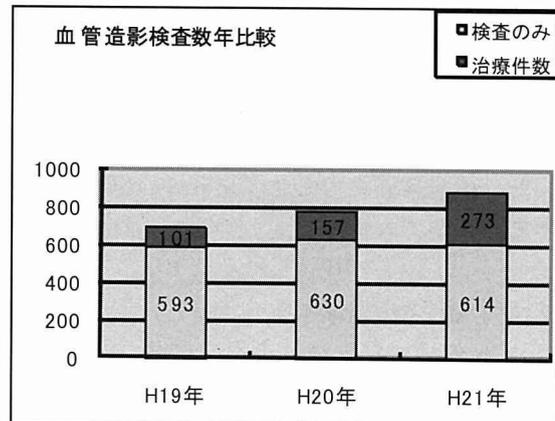
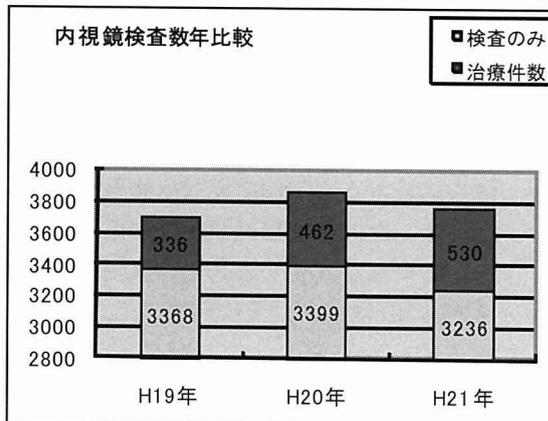
ら対応を決定し混乱を避けたいと思います。

2. 皮膚科外来の改築

待ち時間短縮に向けて昨年より、週3回3診体制と成っていましたが、診察室が整備されておらず、改築となり整備されました。

〈特殊検査業務について〉

特殊検査室では検査件数が以下の表の状況で、治療件数の増加見られ、看護師1名と看護補1名を増員しました。



〈病院機能評価受審〉

機能評価受審に伴い外来の環境を整備しました。変更事項の徹底と各外来のマニュアルを整理し、機能評価で整備事項を確認しました。

受診後検討事項は①救急外来の薬品管理について、②外来診療の会議についての2点でした。

①については専用の金庫を設置し、薬品の管理を実施しました。②については今後設置を希望します。

〈継続看護〉

継続看護については、昨年同様にケース発表を行っています。H21年2回実施しH22年に1回を予定しています。内容も係長の指導を受け充実してきました。多くのケースを聞き日々の外来看護の参考にしてほしいと思っています。

H21年もDPC・機能評価と変化に富んだ年でした。22年も安全な看護を提供する・働きやすい職場作りをする事を念頭にスタッフの協力の下努力したいと思います。